第１学年　英語科学習指導案

１年１組　男子　20 名　女子　20 名　計　40 名
指　導　者　　中川　拓也
【授　業】　13：30～14：20　会場　学習室　（4 階）
【協議会】　14：30～15：20　会場　学習室　（4 階）

１　単元名　　Unit8 Think Globally, Act Locally（*New Horizon* 1）

２　単元について

（１）単元設定の趣旨

本単元では、純が目標とする人物であるいとこの美奈についてのスピーチから始まり、美奈が働く民族料理店が行っている環境を守るための取組について聞いたり、井戸を作るための募金のポスターを読んだりする場面が展開される。ポスターの中では途上国の水問題について述べられており、生徒は英語の授業で初めて国際問題について触れることになる。必要な時にすぐに水が手に入る環境で暮らす生徒たちにとっては、その国の子どもたちが水を手に入れるために何をしているか、そして水問題によって引き起こされる様々な問題について考える機会となるだろう。本時では、世界が抱える問題について、生徒が現地での生活と自分自身の生活とを比較しながら、自分たちができることやしたいことについて教師や仲間とやり取りを行う。やり取りを通して他者の考えを知ることで、テキストの内容についてより深く関わることができると考える。

学習指導要領においては、(3)話すこと[やり取り]ア「関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」と目標設定されている。また、学習指導要領解説には「やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問をしたり意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。」とある。これらの目標に到達するためには、「相手の発話に応じ」て、「対話を継続・発展」させていく力が必要である。

さらに、鈴木(2024)は、やり取りは認知的アプローチ（学習者個人の頭の中で起こる言語習得プロセスを促す）と社会文化的アプローチ（学習者同士が意味を共同で構築しながら学ぶプロセスを促す）の観点から第二言語習得に重要だと述べている。やり取りを行うことで、自然と英語を使用することを通して言語習得に近づくことが期待できる。

言語材料としては“want (try, need など) to ＋動詞の原形” “look＋形容詞”を扱っている。 “want +to～” は小学校から慣れ親しんでいる表現ではあるが、やり取りの際にお互いの気持ちを伝え合う場面で適切に使用できるようにしたい。

本時では、ケニアが抱える水問題についての英語で書かれたポスターを読み、その内容について oral interaction を通して内容理解を図る。本時の最終段階では、 ケニアが抱える水問題の実際を知った上で、自分たちには何ができるかについてペアでやり取りを行うことを目標とする。

（２）生徒の実態

生徒はこれまでの授業で、身近なトピックについて１分間程度のやり取りでも、ほとんどの生徒が続けることができる。しかし、文脈に一貫性がなかったり、相手の発話内容をよく理解しないまま無理に対話を続けようとしたり、片方が一方的に話したりするような場面が随所に見られる。一方で、お互いに発話につまることがあっても、やり取りの中で相手が伝えたいことを探り当てることができたり、相手と共感できたりすると素直に喜び、達成感を得ている様子がうかがえる。

（３）指導の構え

・読解を促す発問の工夫

読解前に教師が行う発問の効果として、「①生徒の理解の深まりを促すこと」、「②視点を与えることで主体的に学習に取り組む生徒の育成」が期待できることが挙げられる。Grabe(2019)では、読解方略について述べており、読解目的をもつことやテキストに問いをもつことが読解をする上で重要であることが言及されている。教師による発問から読む目的を見出し、意欲的にテキストを読もうとする学習者の育成を目指したい。

・やり取りの目的の共有

「ケニアの水問題解決のために自分たちがしたいことを考え、伝え合う。」というやり取りの目的の共有を行うことで、本時における目指すべき姿を教師と生徒で共有する。本時では、英語で書かれたポスターを読むことを通して得た情報を基に、現地の子供たちのために何がしたいかについて英語でやり取りを行う。ケニアで水問題に苦しんでいる人のニーズに合わせながら考え、自分がしたいことを理由とともに伝え合うことを目標としたい。

３　研究主題・副題との関連

本単元では、英文を読む目的を理解し、読むことで得た情報を基に、水問題に苦しむケニアの人たちに自分がしたいことについて考え、英語で伝え合う生徒を「自立した学習者」とした。英文を読む際は、ケニアの人々が抱える問題について、文章から得るべき情報を正確に得るために、教師による発問を工夫する。また、やり取りの目的を全体で共有することで、「ケニアの水問題解決のために自分たちがしたいことを考え、伝え合う」という課題の解決・追究を目指す。

本単元では「世界や地域が抱える問題の現状を知り、問題解決のために自分がしたいことについて考え、英語で伝え合うことができる」という目的達成のため、世界が抱える諸問題に関する文章を読み、自分たちがしたいことについて英語で話す。

本時ではケニアが抱える水問題に関するポスターを読み、自分たちがしたいことについて英語でやり取りを行う。自分自身で考える時間、ペアで話し合う時間、全体で話し合う時間を通して、課題解決に向かうためのよりよい手立てを考えていく。こうした「全体⇔個」「個⇔ペア」という学びの往来を通して、自分の考えが課題解決に十分かをメタ認知するだけでなく、表現の幅を広げる絶好の機会となる。

４　単元の目標

○世界や地域が抱える問題の現状を知り、問題解決のために自分がしたいことについて考え、英語で伝え合うことができる。（思考力・判断力・表現力等）

５　全体計画（全３時間）

第１次　教科書の登場人物による好きな人紹介を参考にし、自分が目標とする人に近づくために、したいことやしようとしていることを伝えることができる。　……１時間

第２次　相手の希望を知るために、したいことやする必要のあることを尋ねたり答えたりすることができる。　……１時間

第３次　ケニアの水問題に関するポスターから必要な情報を読み取り、自分たちがしたいことについてやり取りすることができる。　……１時間（本時）

６　本時の学習（全３／３時間）

（１）指導目標

・テキストの内容をふまえ、ケニアが抱える水問題解決への一助として自分たちがしたいことについて考え、やり取りを行うことができる。

（２）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1　あいさつ　全体 2　英語で歌を歌う。　全体 3　Oral Introduction　全体 （例 1） T: Last month, people from Ethiopia visited this school, right?　Ethiopia is a good country too.　But it has some problems. As you know, Ethiopia is a country in Africa. In Africa, there are some countries like Ethiopia. I mean they have some problems like Ethiopia. Today, we are going to read about a country in Africa.　Which country's flag is this? Ss:It's Kenya. T:That's right.　Take a look at the children in the picture. How does they look? Ss:They look happy. T:Yes, they look so happy. But why? Let's read about this country. 4　本文を読む。　個人 ・What is the problem for the children in Kenya?	・エチオピアの近年の状況について聞かせ、概要を理解させる。 ・読む前にケニアが抱える問題は何なのかを問う発問をすることで、得るべき情報についての視点を与える。 ・机間指導を行い、読解に困難を感じている生徒については助言する。

5　ケニアの近年の状況について理解したことを確認する。 全体 T: What is the problem for the children in Kenya? Ss: They want to go to school, but they can't. Because they don't have time. They need water. T:Yes.　Do we have the same problem in Japan? Ss:No, we don't. T:That's right. We can use water anytime. But, in some villages in Kenya, children collect water at the river. It is very far from their village.　What does "far" mean? Ss:遠い。 T: Yes.　They walk for a long time every day. Do they have time? Ss: No, they don't. T:Yeah, so they can't go to school.　The volunteer group builds wells for them. What are they doing to build wells? Ss: They're collecting money for them. T: Yes.　They need our help. What do you want to do for the children?　Let's think together. 6　課題の提示 全体	・本文の内容をどの程度理解しているかを測る発問や、新出の表現に関する発問を行なうことで、本文の内容について英語で理解することを促す。 ・ケニアの水問題に関する現状を読み取らせえた上で、生徒たちから本時の授業で何がしたいか（本時の課題）を聞き出す。
ケニアの水問題解決のために自分は何がしたいかを考え、伝え合おう。	
7　ケニアの子供たちのためにしたいことについて考える。 個 8　横の人と自分たちに何がしたいかを話し合う。 ペア （例 3） S1: I want to give money to them. Because they need wells. How about you? S2:I don't know. So, I want to know about the problem more. I want to learn about the history of Africa too. S1: Sounds good!	・机間指導を行い、英語の表現が思いつかない生徒がいる場合は助言する。 自分たちがケニアの子供たちに対してしたいことについてやり取りを行うことができる。（思・判断・表）【観察】

9　全体で考えを共有する。 全体 (例 4) T:What do you want to do for the children in Africa? S1:I want to learn about the problem and…“たくさんの人に知ってもらう”. T:How can you say “たくさんの人に知ってもらう”in English? Ss:“tell many people about it”. T:Good. S1, can you tell you idea again? S1:I want to learn about the problem and tell many people about it. T:You did it!	・指名されたペアが発表し、その内容から、教師が全体へ質問したり、個別にコメントを求めたりして話題を広げる。 ・発表した生徒から出てきた表現で他の生徒が理解できないものがある場合や発表者が何と英語で言えばよいか分からないものがある場合は全体で考え、共有する。 ・発表者の意見を聞くことで、自分が話したい内容を修正したい場合は修正させる。
10　縦の人と自分たちが何がしたいかを話し合う。 ペア	・机間指導を行い、英語の表現が思いつかない生徒がいる場合は助言する。 ・そもそも日本語でも何を言えばいいか分からない生徒には、相手ペアの意見にコメントをしたり、全体シェアでペアが話していた意見を活用してもよいことを伝える。
11　全体で考えを共有する。 全体	・指名されたペアが発表し、その内容から、教師が全体へ質問したり、個別にコメントを求めたりして話題を広げる。 ・発表した生徒から出てきた表現で他の生徒が理解できないものがある場合や発表者が何と英語で言えばいいかわからないものがある場合は教師が補足する。 ・発表者の意見を聞くことで、自分が話したい内容を修正したい場合は修正させる。
12　自分たちがしたいことについて英語で書く。 個	・必要に応じて辞書を使うことを伝える。
13　作文したものを４人グループで見合う。 グループ	・語彙や文法面の誤りがないかを４人で確認し合い、必要に応じて修正し合う。
14　あいさつ 全体	

７　授業観察の視点

・ 教師による読解前の発問は生徒の読解促進につながったか。

・ 水問題の解決法を考える上で、「全体⇔個」「個⇔ペア」という学びの往来の在り方は有効であったか。

８　参考資料

・鈴木祐一(2024). 「あたらしい第二言語習得論」研究社

・William Grabe, Fredricka L. Stoller.(2019). Teaching and Researching Reading